２　避難所運営の過程

避難所は、被災により心身に大きなダメージを受けた方が集団生活を行う場です。

被災者の方が日常生活を取り戻していくまでには、いろいろな過程があり、避難所運営のうえでも、

生命が助かり協力しあえる時期から、行政や避難所運営への不満や人間関係のトラブルが表出してくる時期に移っていくことがあります。

運営を担う委員会では、そのような過程があることを知っておき、適時にトラブルの芽をつみ、相談やきめ細かなケアで被災者の心に寄り添えるよう、専門家の支援を受けるなど、対応していくことが重要です。

|  |  |
| --- | --- |
| 時期 | 状況 |
| 災害直後 | ・避難者が避難所に一度に集まり、ライフラインや情報の途絶などにより、混乱が生じる。  ・自分や家族・近隣の方の命を守り安全を確保するために、消火、避難誘導、救出活動に取り組む。 |
| １～３日 | ・災害をともに体験したことで、被災者同士が強い連帯感で結ばれる。  ・がれきや残骸の片づけや避難所運営等で助け合う。 |
| ４日～数週間 | ・プライバシーが守れない、トイレなど生活の不自由さや物資不足等により、避難所でのストレスが増大していく。  ・ささいなことからケンカが生じたり、ＤＶや性被害なども起こりやすくなる。  ・一人ひとりの被害状況の違いが目に見えるようになって、不公平感、嫉妬も生じて、避難所全体の連帯感が失われがちになる。 |
| １か月以降 | ・家族や家を失った方、事業が続けられなくなった方の中には、生活再建や、自力での復興が困難ため、深く心に傷を負ったままの方もいる。 |

　　避難所運営経験者やボランティア等へのヒアリングにより作成